

# 就職情報

# オーストラリアでの就職情報

オーストラリアの就職事情はここで確認しよう!!

## 人材のプロにインタビュー



スタッフソリューション・オーストラリア  
マーケティングマネージャー  
山口 幸司氏

今、オーストラリアでの就職を目指している方は必見！全豪に展開している人材派遣会社『スタッフソリューション・オーストラリア』の山口幸司氏に、現在のオーストラリアの日本人求人状況や就職の際のアドバイスを伺いました。

取材協力：Staff Solutions Australia

### オーストラリアの求人状況

いわゆる製造業やサービス業などの会社というくくりでは、業種はほぼ日本と変わりませんが、日本人を特に好んで採用する業種というのも存在しています。日系関連でいうと、特にパースには資源が多いので、今現在と今後を含めて商社からの求人、または鉄鋼業や物流関係、情報通信などの付随した産業からの求人が期待できると思います。オーストラリア全体でも、商社、機械や電子機器などから食品のメーカー、銀行や証券会社などの金融関係、IT関連会社がありますね。また、日本食レストランとか留学関係の会社、旅行代理店、日系の雑貨店などにも求人があります。日系以外でも、オーストラリアや欧米資本の会社で、金融やIT、貿易関係で日本と取引のある会社というのは日本人スタッフを募集しています。また、政府関連や教育の分野でも日本人の雇用はあります。日本人を求人する大きな理由の1つとして、また我々がオーストラリアで働く強みとして、日本語が話せるということがあります。それは、日本の企業などとやり取りをする時、または日系企業の場合に日本側と調整をする時などは、日本人のほうが良いからでしょう。現に、1つの企業内で多くのオーストラリア人が働いていても、経営陣は日本人である場合が多いのです。また全体的に、コストの問題で日本から駐在で来るよりも、現地をよく知っているこちらの人材の採用が増える傾向にあります。

### 日本人の就職に必要なこと

雇用の際に求められることで日本と同じなのは、それまでの経験や資格、会社の社風に合う人柄などです。しかし、日本での就職と大きく異なる点は、まず働けるビザがあることです。経験や資格などがいくら優れていても、働けるビザがないということは、就職にはすごくマイナスです。また、もう1つの相違点として英語があります。日本食レストランのシェフなどは、必ずしも英語ができる必要はありませんが、一般的に英語力は必須です。仮に日本企業であっても、取引先で英語がでてくることが多くあります。つまり、オーストラリアではまず働けるビザがあり、次に英語力、そして、日本と同じように能力や経験、資格や人柄の総合したものが重視されます。資格に関しては、日本の資格はオーストラリア国内では通用しないことが多いので、学位も含めて、こちらでの取得も考えたほうが良いと思います。

### ビザと仕事についての認識の誤り

アルバイトなどで働いたところで、ビジネススポンサーになってもらい、就労ビザ（ビジネスビザ）を取得して就職したいという方がたくさんいます。可能な場合もありますが、これは非常に難しいことです。理由として、オーストラリアは他国と比べて永住ビザが取りやすいがために、逆に就労ビザの取得が厳しくなっているからです。これは政府が、就労ビザを1人に認可することは、市民の仕事が1つなくなるということなどから、永住ビザを取得しての就労を薦めているからです。更に、申請に手間と時間がかかるので、ほとんどの企業は専門職や高い役職に適する人材でないと、サポートをしない傾向にあるようです。

また、ワーキングホリデーで就職し、キャリアアップができると思っている方もいます。多くはないですが確かに、短期間の仕事、つまり3ヶ月から6ヶ月の仕事雇用はあります。しかし、企業側としては即戦力となる人材を求めるので、日本でやってきたことと大幅に違う職種に就職をしたり、キャリアアップをすることは難しいでしょう。逆に、日本でのしっかりとした経験を活かせるような仕事の求人があるって、且つ英語力があれば可能性があると思います。

### オーストラリアと日本の勤務環境の違い

勤務環境の違いとして、オーストラリアのローカル企業は簡単に解雇をするということが挙げられます。例えば、3ヶ月の試用期間があったとすると、その期間にある程度の結果が残せない、または将来性が見えないなどという場合は、期間中でも「契約しません」と言い、1年ごとの契約の場合でも「次は契約しません」とはっきり言います。これは日本人以外でも同じです。

また、「オーストラリアならのんびり働けていい」と思っている人がいるかもしれませんが、オーストラリア人のエリートは週末も働き、家に持ち帰って仕事をしたりしています。また日本と違い、朝早く会社に来て、前に前に終わらせようとします。これは一部の人たちだけですが、一般のオーストラリア人が5時半に帰ったり、昼間からビールを飲んだりしているところばかり見て油断していると、「こんなはずじゃなかった」と就職後にストレスを抱えることになりえます。

更に、オーストラリアの企業は、それぞれの役職に基づく役回りがしっかりしているところが多いので、それぞれが自分の仕事に対して高いプロ意識を持っています。そのため、日本のように自分の役回り以外のことをやろうとすると、こちらではおせっかいと思われることもありますし、「なるほど」と受け入れられる場合もあります。そのバランスがすごく難しいですね。ただオーストラリアは移民の国で異文化を受け入れる場合が多いため、トータルで見ると働きやすい環境だと思います。